【事例１６】White／Yogyakarta／Kali Loro 村

１．調査

対象

ジャワ島、 Yogyakarta 特別区、Kulon Progo 県 (Kabupaten)、Kali Loro 村

調査者

Benjamin White

調査期間

1972年3月～1973年12月

報告

White, Benjamin. 1976. *Production and Reproduction in a Javanese Village.* Ph. D. dissertation. New York; Department of Anthropology, Columbia University.

Nag, Moni; Benjamin N.F. White; & R. Creighton Peet. 1978. An anthropological approach to the study of the economic value of children in Java and Nepal. *Current Anthropology* 19(2): 293-306.

２．対象の概要

地域の概況

Kali Loro 村は、Yogyakarta 特別区、Kulon Progo 県の北部、Yogyakarta 市の北西35ｷﾛﾒｰﾄﾙに所在する。この村は26の集落(dukuh)に分かれ、1971年における総人口は、8,530人であった。

対象集団の概要

世帯調査は６つの集落より478世帯、2,197人を、出生力調査は６つの集落より100人の既婚婦人を、労働投入調査は少なくとも6-19歳の１人の子がいる20世帯を、それぞれ調査対象とした。

3．調査項目と方法

調査方法

６日ごとに訪問、これを１年続けた。世帯メンバー１人ひとりにつき、過去24時間の仕事と食物消費、過去６日間の収入と支出などについて質問。

調査項目

年齢別に見た子供の労働投入／男子と女子の比較／兄弟姉妹の多さの影響／子供の労働投入量と経済状態／老後における生活保証としての子供の価値

4．主たる結論

年齢別に見た子供の労働投入

年齢が上がるごとに労働投入量は増加し、15-19歳層の男子は１日当たり平均7.9時間、女子は10.2時間である。12-14歳層の女子の労働投入量は、15歳以上の男子のそれとほぼ同じである。

男子と女子の比較

ほとんどの年齢層で女子は男子よりよく働く。女子は家事を行なうこと、男子は女子に比しより熱心に通学するためである。

兄弟姉妹の多さの影響

兄弟姉妹の少ない子供が兄弟姉妹の多い子供に比しより多く働くかといえば、そのような傾向があるとはいえない。むしろ逆の傾向が見られた。これを説明するのは難しいが、(1)兄姉について働くことが期待される、(2)兄姉は弟妹に仕事を任せる、が理由となるかも知れない。

子供の労働投入量と経済状態

子供の総労働投入量と収入ー支出バランス(収入から食物支出を差し引いた値)との間には、有意な順位相関係数が見られた。これは、子供の総労働投入量が大きな世帯ほど経済状態がよいことを示唆する。一般に考えられているのとは逆に、現金収入に結び付くさまざまな就労機会(その多くは稲作に比し見返りは小さいが)が豊富にある(実際、水田耕作および畑地耕作の従事時間は、男の場合は全生産労働の37%、女の場合は22%を占めるに過ぎない)ので、世帯規

模が大きいほど(＝子供の数が多いほど)、当該世帯は多くの就労機会を捕らえることができる。

老後における生活保証としての子供の価値

121人の老人(単身者ないし夫婦)の生存している子供は、平均４人であるが、うち1.5人は村外にいるので、残り2.5人に依存しなければならない。うち88のケースは子と同居している。一般に親は自身の子(養子を含め)を頼る傾向が強いので、子がないか子の少ない夫婦は養子をとることにきわめて熱心である。18ケース(うち13ケースは老夫婦、５ケースは老婆)は、子とも孫とも同居していないが、多くの場合、近隣に既婚の子がいる。

5. コメント

ジャワ島で行われた時間配分(time allocation)研究として、もっとも詳細なもの。【事例１５】と同一時期、同一調査地で行われており、相互補完的な調査研究とみることができる。

(五十嵐忠孝記)